

〈外国語活動〉

主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

—目的や場面・状況を明確にした言語活動を通して（第 3 学年）—

宮古島市立久松小学校教諭 国 吉 恵 美

I テーマ設定の理由

中央教育審議会答申（平成 28 年 12 月）（以下、「中教審答申」とする）において「グローバル化の急速な進展が、社会のあらゆる分野に影響する現在やこれからの社会の在り方を考えると外国語、特に国際共通語としての英語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、子供たちがどのような職業に就くとしても、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、今まで以上にその能力の向上が課題となっている。」と指摘されている。

平成 29 年に告示された『小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編』（以下『解説外国語活動編』とする）における、外国語活動の目標は「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力」を育成することを目指すとして設定されている。そして、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」と示され、その資質・能力は「言語活動を通して」指導することが求められている。

本校の子ども達は、初めて触れる外国語に興味・関心があり、単元の中に出てくる言葉や表現を使ってやり取りを楽しんでいる。しかし、単元の中で与えられた言葉や表現のみを用いており、自分の本当に伝えたいことを相手に伝えるには、十分とは言えない。そこで、外国語の言葉や表現に限りがある段階であっても、子ども達が自分の本当に伝えたいことを伝えられるような授業の実践をしていきたい。

『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』（2017）において、「言語活動は、『実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う』活動を意味する。（中略）言語活動は、言語材料について理解したり練習したりするための指導と区別されている。」と示されている。そのため、授業の中に、自分の考えや気持ちを双方に伝え合う体験ができる言語活動を設定したい。

自分の考えや気持ちを伝え合うためには、子ども達が考えてみようと思えたり、自分の本当に言い伝えたいことが伝えられたりして、主体的に取り組める言語活動の内容が重要であると考え。

中教審答申において、『主体的な学び』の過程では、（中略）コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定」と示されている。そこで、目的や場面・状況を明確にして、自分の考えや気持ちを伝え合う「話すこと〔やり取り〕」の言語活動を取り入れたい。身近で簡単な事柄、自分との関わりで捉えられる伝え合うための目的を設定する。そのやり取りの場面や状況において、自分が本当に伝えたいことを考える。そして、これまで慣れ親しんできた外国語を用いながら、どんな語句や表現を使えばいいのかを考える。また、どのように工夫すれば相手に自分の伝えたいことが伝わるのか、伝えたいことが同じ内容の友達同士でグループになり、友達と関わり合いながら一緒になって思考し、クラスの人々と伝え合う活動を行う。そして、自分の学びを振り返り、次の学習への意欲に繋げていく。

目的や場面・状況を明確にして、自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を体験することで、どう工夫すれば、自分の伝えたい考えや気持ちが相手に伝わるのか、思考を働かせる学びとなり、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育まれるのではないかと考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

外国語活動の学習において、目的や場面・状況を明確にして、自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を行うことによって、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成できるであろう。

Ⅱ 研究内容

1 主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度について

今回、学習指導要領は「何ができるようになるか」という観点から、「身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。」とする「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力の目標が示された。そして、その内容としては、表1にまとめたように示されている。つまり、相手に配慮しながら、自分の考えや気持ちなどが伝わるように工夫しながら伝え合うことである。実際のコミュニケーションにおいて、既習の言葉や表現だけを用いて相手に伝えるのではなく、自分が本当に伝えたいことを工夫して伝えることのできる言語活動を取り入れたいと考える。

表1『解説外国語活動編』2 内容(2)

- | |
|---|
| ア 自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を使って、相手に配慮しながら、伝え合うこと。 |
| イ 身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり質問に答えたりすること。 |

『解説外国語活動編』において、「初めて外国語に触れる段階である小学校においては、母語を用いたコミュニケーションを図る際には意識されていなかった、相手の発する外国語を注意深く聞いて何とか相手の思いを理解しようとしたり、もっている知識などを総動員して他者に外国語で自分の思いを何とか伝えようとしたりする体験を通して、日本語を含む言語でコミュニケーションを図る難しさや大切さを改めて感じることで、言語によるコミュニケーション能力を身に付ける上で重要であり、言語への興味・関心を高めることにつながる。」と示されている。

そこで、自分の考えや気持ちが相手に伝わるように工夫して伝えなければならない場面・状況を設定することが必要であると考え。そのために、自分の伝えたい考えや気持ちを伝える場面でできるだけ日本語に頼らないように、既習の語句や表現を使ったり、持っている知識の中で言葉を言い換えたり、絵を描く・ジェスチャー等の非言語手段を使ったりして工夫したやり取りを段階的に指導していきたい。また、初めて外国語に出会う小学3年生であることを考慮して、外国語学習に意欲をもって取り組んでいけるように、聞くことに十分に慣れ親しませたり、間違ってもいい雰囲気を作ったり、友達との関わりの中で活動させたりするなど、丁寧な指導・支援が必要であると考え。児童の負担感や緊張感に配慮しながら活動内容に見通しをもたせ、安心して外国語活動に取り組ませていきたいと考える。そして、話されていることが分からない時や言いたいことが言えない時に「外国語を使ってやり取りすることはできない」と諦めることなく、「聞いてみよう」「伝えてみよう」と工夫してチャレンジしようとする態度を持ち続けてほしいと考える。

これらのことから、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度とは、「相手に配慮しながら自分の考えや気持ちが伝わるように工夫して伝えようとしたり、相手の考えや気持ちを理解しようとして聞いたりする態度」と捉える。

2 目的や場面・状況を明確にした言語活動について

『解説外国語活動編』では、「各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し」と示され、直山木綿子(2019)は、コミュニケーションの目的や場面、状況を子供と共有しておくことが大切であると述べている。

また、『解説外国語活動編』では、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を示し、「外国語によるコミュニケーションを円滑に行うためには、どうすれば相手により伝わるかを思考しながら、表現する内容や表現方法を自己選択し、尋ねたり答えたりするようにすることが大切である。」と示している。

目的や場面、状況を明確にすることは、必然的に思考を働かせることにつながり、主体的なコミュニケーションを図る態度を育むためには、とても重要であると考え。そして、子どもが興

味・関心をもって言語活動に取り組むことができるためには、身近で簡単な事柄、自分との関わりで捉えられ「楽しそう」「やってみたい」という気持ちになれる題材を設定して、言語活動を体験させることが大切であると考えます。

そこで本研究では、『解説外国語活動編』、「外国語活動・外国語の言語活動の例」の学校段階別一覧表の、話すこと〔やり取り〕（ウ）より、自分や相手の好み及び欲しい物などについて、簡単な質問をしたり質問に答えたりする言語活動を実践する。単元名を「じつは知らない私の好きなものクイズ」と設定する。自分の好きなものについて友達に伝えるために、これまで慣れ親しんできた語句や表現を使いながらスリーヒントクイズを作り、クラスの友達に伝えたり答えたりするやり取りの場面を設定する。クイズを出題する時は、できるだけ日本語に頼らないという状況を設定する。

単元の初めには、単元の流れと、「What's This?」「It's ○○」という表現を使ったやり取りの仕方を子どもと共有し、単元の見通しをもたせた上で授業を進める。

第2時から実際にスリーヒントクイズを作りやり取りを行わせるが、クイズの内容や伝える工夫について、やり取りの体験を通して気づいていけるように易しいものから、段階的に取り入れていく。そこで、題材を「好きなスポーツ」「すきなくだもの」「好きな動物」の順に設定していく。

まず、「好きなスポーツ」を題材に設定する。子どものもっている外国語の言葉や表現に限りがあっても、ジェスチャーでスポーツをする動きを表したりしながら、負担なく相手に自分の好きなスポーツを伝えることができ、相手にとっても答えが簡単に限定されやすい。非言語手段もコミュニケーションを行う上では、大切であることを気づけるようにする。

次に「すきなくだもの」を題材に設定する。「red」や「circle」等の「色」や「形」、名詞の言葉を用いたスリーヒントクイズのやり取りから、果物の特徴を表す「small」「sweet」等の形容詞の言葉を用いたスリーヒントクイズのやり取りへと言葉を広げることができると考える。また、正答率の低い内容から出題してクイズの難易度を変えて伝えていくことも思考させる。そして、外国語が身の回りに溢れていることやそれを外国語活動で話す活動に用いることができることを意識づけ、伝えたいことが伝えられない時には、既習の言葉や身の回りで聞いたことのある外国語を使って、別の言葉に言い換えて伝えられることにも気づかせたいと考える。

最後に単元のまとめとして、「好きな動物」を題材にする。これまでのやり取りで気づくことができたジェスチャー等の非言語手段を使いながら動物の動きを表したり、別の言葉に言い換えて伝えたりする等の工夫を、友達の反応を確かめながら、自己選択して伝えることができると考える。また、動物の特徴を表すために「beautiful」「strong」等の形容詞の言葉を用いたスリーヒントクイズのやり取りへと言葉を広げ、これまでの一文に名詞や形容詞の一語の言葉を入れたヒントではなく、「It's strong body」等のように形容詞と名詞を組み合わせた一文に二語の言葉を使ったヒント文でやり取りを行わせたいと考える。

スリーヒントクイズの内容を1文に1語入ったヒントから2語入ったヒントへと言葉を広げて作ったり、ジェスチャー等の非言語手段から自分が持っている外国語を用いて別の言葉に言い換えて伝えたり、工夫したやり取りへと段階的に指導するために、自分との関わりが感じられる題材を意図的に設定しながら、目的や場面・状況を明確にした言語活動を行っていきたい。

また、やり取りにおいて、自然な会話が続き楽しいコミュニケーションができるために、話し手に反応しながら聞くことが大切であると考えます。そのために、リアクション言葉を用いてやり取りできるように慣れ親しませていきたい。リアクション言葉を用いることは、相手に配慮した態度であり、聞き手として自分の気持ちを伝えられる言葉を広げることにも繋がると考える。

3 評価について

本研究において、児童の振り返りカード（図1）や行動観察、ループリック（表2）で評価を行い、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を見取る。

ループリックは、第4時のクイズ作りの場面、第5時のやり取りの場面で活用し評価していく。

表2 ループリック

言語		A	2語の言葉が入ったヒント文が1つ以上あり、やり取りカードを見ながら自然なやり取りの中で「What's This?」「It's 〜」の表現を用いている。
		B	やり取りカードを見ながら自然なやり取りの中で「What's This?」「It's 〜」の表現を用いている。
		C	やり取りカードを見ながら自然なやり取りの中で「What's This?」または、「It's 〜」の表現のどちらかを用いている。
態度	話す	A	アイコンタクトしながら、ジェスチャー・繰り返す・絵を描く・別の言葉に言い換えて伝えたいスリーヒントを伝えようとしている。
		B	アイコンタクトしながら、伝えたいスリーヒントを伝えようとしている。
		C	聞き手を意識していない。
	聞く	A	相手を理解しようとアイコンタクトしながら、あいづちをうつ・依頼する・質問する・リアクション言葉を使って、最後まで聞こうとしている。
		B	相手を理解しようとアイコンタクトしながら、あいづちをうつ・依頼して最後まで聞こうとしている。
		C	話し手を意識していない。

酒井英樹（2018）は、振り返りカードに書かれた児童の自己評価が教師の見取りと異なっている場合に、その違いを次の授業に行かすことや、行動観察等では見取れない場合に、振り返りカードに書かれている内容を分析することで、児童の様子をとらえることを述べている。

児童の振り返りカードでは、めあてに沿って、言語面や内容面で振り返りを行わせる。英語について気づいたことやできたこと、出来るようになりたいこと、友達が頑張っていたことを自由に記述する欄を設ける。そして、振り返りを共有させ、相互評価まで繋げていきたい。子どもの振り返りカードから、学習したことを自分との関わりで捉えている様子や子どもの良さを見取り、次時への意欲に繋がっていけるような肯定的なコメントを書いていく。

香川千恵（2013）の積極的にコミュニケーションを行う姿の例を参考に、児童の相手に配慮したり工夫したりする姿の例を表3にまとめた。この表を手掛かりに行動観察を行う。相手に配慮して、工夫して伝えようと思いつきながら粘り強く活動に取り組もうとする態度を評価していく。

外国語活動 ふり振り返りカード

月 日 () Name: _____

Unit 単元名 じつは知らない私のすきなもののクイズ

Today's goal :

☐ ☐ ☐

①笑顔で楽しく、歌うことができましたか。	
②よそうして聞くことができましたか。	
③相手の目を見て、聞いたり話したりできましたか。	
④聞きやすい声の大きさを話しましたか。	
⑤「スリーヒントクイズ」を作ることができましたか。	
⑥ある物が何かをたずねたり、答えたりする言い方になりましたか。	
⑦リアクション言葉を使うことができましたか。	

★英語について、気づいたこと。
 ★できたこと・工夫したこと・できるようになりたいこと。
 ★友達ががんばっていたこと。

図1 振り返りカード

表3 相手に配慮したり工夫したりする姿の例

聞く	・あいづちをうつ ・称賛する	・反応する ・依頼する	・質問する
話す	・あいさつをする ・繰り返す ・ジェスチャー ・お礼を言う	・ゆっくり、はっきり話す ・別の言葉に言い換える ・絵を見せる	・質問する
思考を働かせている場面	・既習の語句を使ってスリーヒントを考えている。 ・言いたい言葉が見つからない時は、友達と一緒に考えている。 ・伝える相手にも分かる語句になるように工夫して考えている。 ・クイズのスリーヒントの順番を考えている。		

Ⅲ 指導の実際

1 単元名 「じつは知らない私の好きなもののクイズ」

2 単元目標

○外来語とそれが由来する英語の違いに気付き、身の回りの物の言い方や、ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。（知識及び技能）

○クイズを出したり答えたりし合う。（思考力、判断力、表現力等）

○相手に伝わるように工夫しながら、クイズを出したり答えたりしようとする。

（学びに向かう力、人間性等）

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身の回りの物の言い方や、ある物が何かを尋ねたり、それが何かを答えたりする表現に慣れ親しむ。 外来語とそれが由来する英語の違いに気付く。	ものの特徴を捉えてヒントを考え、クイズを出したり、答えたりしている。	相手に伝わるように工夫しながらクイズを出したり答えたりしようとしている。

4 指導計画と評価方法

時	●ねらい ・学習活動	目的・場面・状況	評価の観点と評価方法
1	「クイズのやり方を知ろう」 ●クイズの出し方を知る。 ●いろいろなクイズを楽しみ、尋ね方、答え方を知る。 ・デモンストレーションを見る。 ・シルエットクイズ、漢字クイズ、足あとクイズ、スリーヒントクイズをする。 ・チャンツ「What's this?」をする。	目 いろいろなクイズを楽しみ、尋ね方、答え方を知る。	【知識・技能】 振り返りカード 行動観察
2	「好きなスポーツのスリーヒントクイズを作り、やり取りしよう」 ●出題するものの特徴を捉えヒントを作る。 ●クイズを工夫して出したり答えたりしようとしている。 ・チャンツ「Best チャンツ」をする。 ・スリーヒントクイズを作る。 ・スリーヒントクイズでやり取りする。	目 お互いの好きなスポーツを伝えたり、分かっていたりする。 場 好きなスポーツをスリーヒントクイズでやり取りする場面 状 クラスの友達と、お互いに語彙が少ない中、できるだけ日本語を使わない。	【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 振り返りカード 行動観察
3	「好きな果物のスリーヒントクイズを作り、やり取りしよう」 ●出題するものの特徴を捉えヒントを作る。 ●クイズを工夫して出したり答えたりしようとする。 ・スリーヒントクイズを作る。 ・チャンツ「Best チャンツ」をする。 ・スリーヒントクイズでやり取りする。	目 お互いの好きな果物を伝えたり、分かっていたりする。 場 好きな果物をスリーヒントクイズでやり取りする場面 状 クラスの友達と、お互いに語彙が少ない中、できるだけ日本語を使わない。	【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 振り返りカード 行動観察
4	「好きな動物のスリーヒントクイズを作ろう」 ●出題するものの特徴を捉えヒントを作る。 ・チャンツ「Best チャンツ」をする。 ・スリーヒントクイズを作る。 ・グループで出題するスリーヒントクイズの練習をする。	目 好きな動物のスリーヒントクイズを作る。 場 好きな動物のスリーヒントクイズを考える。 状 クラスの友達とお互いに語彙が少ない中、クイズを考える。	【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 ルーズブリック 振り返りカード 行動観察
5 本時	「好きな動物のスリーヒントクイズでやり取りしよう」 ●相手に配慮しながら、工夫してやり取りする。 ・スリーヒントクイズでやり取りする。	目 お互いの好きな動物を伝えたり、分かっていたりする。 場 好きな動物をスリーヒントクイズでやり取りする場面 状 クラスの友達とお互いに語彙が少ない中、日本語を使わない。	【主体的に学習に取り組む態度】 ルーズブリック 振り返りカード 行動観察

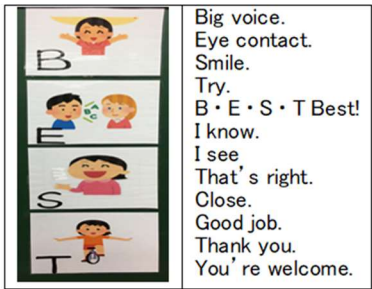
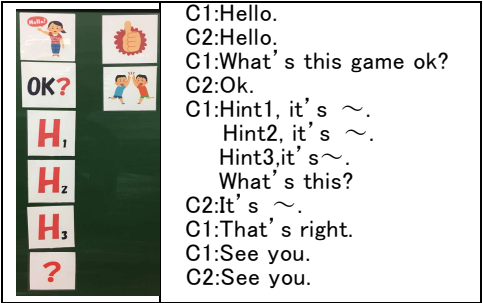
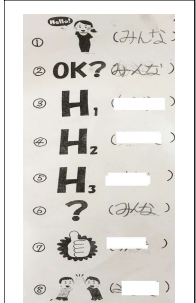
5 本時の指導（5／5時）

(1) 本時の目標

相手に伝わるように工夫しながらクイズを出したり答えたりしようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 本時の展開

	学 習 活 動	○指導上の留意点 ◎評価《方法》
導入 8分	1 はじめのあいさつ ○日づけ、天気を確認する。 ○「Best チャンツ」 2 めあて 「友達が話しやすいように心がけたり、工夫して伝えたりしてやりとりしよう。」 ○「話しやすいように心がけることや工夫」について確認する。 3 ティーチャーズトーク  〈BEST チャンツ〉	○ALTのサポートを受けながら日付、天気を子ども達で確認させる。 ○この単元での「心がける」「工夫して伝える」の言葉の意味を確認する。 ○本時の自分のめあてを紹介する。 ○これまでの「It's red」のような1ヒント文に1語だけの言葉ではなく、「It's high red boots」のように形容詞の言葉が入った2語以上のヒントを交えてティチャーズトークを進める。
展開 22分	4 すきな動物のスリーヒントクイズを工夫しながらやり取りする。 ○ルールを確認する。 ・クイズを伝える時は、日本語を使わないようにする。 ・クイズに答える時、言えない言葉は日本語で話す ○やり取りする。  〈やり取りカードとその内容表現〉  〈やり取りカード〉 ○全体で答える時に言えなかった言葉を確認し合う。	○これまでの学習のまとめとして設定しているため、子ども達の粘り強いやり取りを見取るため、途中で中間評価は入れない。 ○一人で活動に取り組む子どもには、緊張感や負担感を感じないように配慮する。また、グループ内でも単独の行動になっていないか配慮して促していく。  ◎相手に伝わるように工夫しながらクイズを出したり答えたりしようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 《行動観察、振り返りカード、ループリック》
まとめ 15分	5 まとめ・ふり回り ○カードに本時の振り返りを記入する ○友だちの発表を聞く。 ○カードに単元の振り返りを記入する。 ○友達の発表を聞く。 6 おわりのあいさつ	○めあてを確認し、今日の振り返りをさせる。 ○活動を思い出させ、単元まとめの振り返りをさせる。 ○相手に配慮しながら工夫してやり取りを頑張ったことを褒め、これからの学習への意欲に繋げる。

6 仮説の検証

仮説に基づき検証授業を行った。目的や場面・状況を明確にして、自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を行うことによって、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成できたかについて、行動観察、振り返りカードやループリック、検証授業前後のアンケートから検証

していく。

(1) 目的や場面、状況を明確にした言語活動について

第2時のスリーヒントクイズ作りでは、ヒントカードを活用して、好きなスポーツが「水泳」のグループで、第1ヒントに「ライトブルー」、第2ヒントに「スイムスーツ」、第3ヒントに「ウォーター」と書き、正答率の低いヒントから出題できるように、話す内容の構成を工夫してヒントを作ることができた。

第3時では、児童の「summer」の意味が分からなかった。」という発言に対し、「summer beach」や「summer camp」に言い換えると分からない友達に伝わるのではないか、という意見がでた。問題をみんなで考えながら、友達に伝わらない時には、友達が分かるような別の言葉に言い換えて伝えることで解決できることに気づくことができた。

第4時では、3時までの「It's heart.」「It's green.」等の名詞の言葉で一文に一語で作ったヒントではなく、「It's strong body.」「It's many color.」等の形容詞と名詞を組み合わせた一文に二語で作ったヒントを作ることができた。

図2の「先生が外国語で話している時、どんなことを話しているのかな？と考えながら聞いていますか」の問いに、「聞いている」と答えた児童は、検証前の67%に対し、検証後は85%と、18ポイント増加した。毎時間の初めに、その時間に慣れ親しませたい表現を、子どもの身近な生活で起こりそうな場面に設定し、具体物を用いてALTと一緒にティーチャーズトークを行ったことによって、1つ1つの場面に興味・関心をもって反応することができ、思考・判断しながら話を聞くことができたと考える。

また、図3の「外国語活動で学習した言葉や表現を使って進んで話そうとしていますか」の問いに、「話そうとしている」と答えた児童は、検証前の70%に対し、検証後は93%と23ポイント増加した。肯定的な答えを合わせると100%となった。これまで外国語活動に消極的だった児童が、一人で活動することが分かっているにもかかわらず、他のグループに加わることなく、最後までやり取りを行う様子が見られた。このことは、自分の本当に伝えたいことがあった時は、一人でも主体的に活動できることが分かる場面であった。

児童の振り返りカードでは、「楽しかった理由は、自分でスリーヒントクイズを考えたからです。」「友達がシーアニマルが分からなかったので、フィッシュといたら分かりました。」「次はもっと工夫してスリーヒントクイズを作りたいです。」「スリーヒントクイズのおかげで様々な英語を知りました。」など、自分が本当に伝えたいことをクイズで考えたことや友達の反応の程度により表現を変えたこと、次時のヒント作りへの意欲に繋げていること、言語活動を通して言葉を知ることができたことについての記述が見られた。

これらのことから、自分との関わりで捉えられる題材で自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を設定することで、思考を働かせる場面が生まれ、本当に伝えたいことが伝えられ話す内

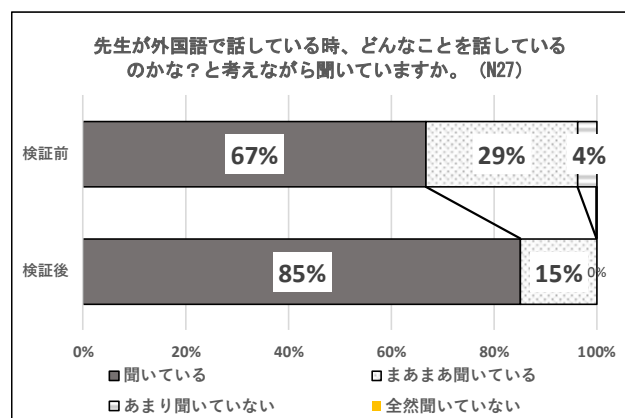


図2 推測しながら聞くことに関するアンケート

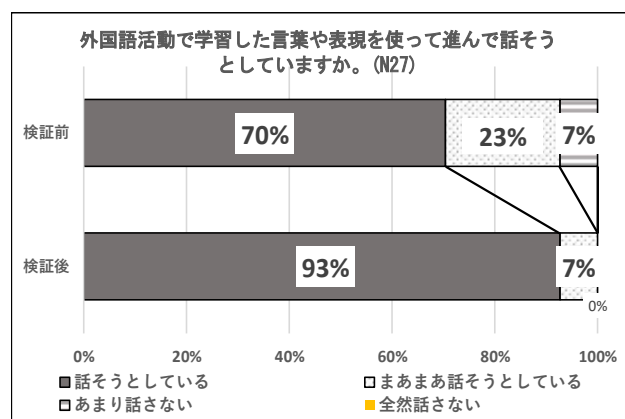


図3 進んで話すことに関するアンケート

容の構成を考えたり、相手に応じた表現を選択したり、その目的を達成するための言葉や表現を知ることができた。目的や場面、状況を明確にした言語活動を行うことは、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る児童の育成に有効であると考える。

(2) 相手に配慮しながら工夫して伝えたり、理解しようと聞いたりするやり取りについて

第5時の「好きな動物のスリーヒントクイズでやり取りしよう」では、ほとんどの児童がやり取りカードに頼らずにやり取りする様子が見られた。

図4のようにアイコンタクトしながら、「Close.」や「Good job.」「Your turn.」等のリアクション言葉を発したり、「Special hint please.」と質問をしたり、「It's chicken baby.」と別の言葉に言い換えたりして、やり取りすることができた。友達のクイズを当てた時や自分のクイズを友達が分かってくれた時は大喜びする子ども達の様子が見えた。

やり取りの場面では、好きな動物の孔雀を伝えるために、大きく羽を広げたイメージでジェスチャーをしながら、時間を掛けて粘り強く伝えているが相手に伝わらずに困っているグループが見られた。最後には、「言葉の最初は『く』だよ。」と日本語で答えを促していた。そこで、授業の改善点として「孔雀の羽はどんな状態・様子になるのかな。」と問いかけることで「open」「close」等、子ども達が持っているだろうと予想される外国語の言葉を引き出すことができ、別の言葉に言い換えて伝えることができたのではないかと考えた。やり取りする場面では、子どもの伝えたいことが相手に伝わらない時を想定し、子どもが持っているだろうと予想される外国語の言葉を引き出せるような問いかけの工夫が必要であると感じた。

図5の「外国語を使ってやり取りする時、友達が気持ちよく話がしやすいように、工夫していることはありますか」の自由記述アンケートでは、検証前は、工夫していることは「ない」「友達の話が分からなかったら、日本語で話す。」と記述する児童が63%であったが、検証後

C1 C2 C3 Hello.
C4 Hello.
C1 C2 C3 What's this game ok?
C4 Ok.
C1 Hint1, it's strong animal.
C2 Hint2, it's long tail.
C3 Hint3, it's yellow and brown .
C1 C2 C3 What's this ?
C4 Special hint please.
C2 両手で口を大きく開くけるイメージのジェスチャーをする。
C1 C2 C3 ハクナマタタ。
(映画「ライオンキング」に出てくる言葉)
C4 ライオンキング?
C1 ちょーclose.
C1 C2 C3 ババギーチバボー
(映画「ライオンキング」の中に出てくる曲の言葉)
C4 It's Lion?.
C1 C2 C3 That's right.
C1 Good job.
C2 C3 Your turn.
C4 Hint1, it's small and light.
Hint2, it's soft.
Hint3, it's yellow. What's this?
C1 It's ことり.
C4 No. Special hint. It's chicken baby.
C1 C2 C3 It's ひよこ.
C4 That's right. See you.
C1 C2 C3 See you.

図4 工夫してやり取りする児童の様子(第5時)

検証前	検証後
・ない。(48%) ・友達の話が分からなかったら、日本語で話す。(15%) ・話を聞いた後に、相手に聞きやすい声で言っている。(15%) ・話を聞いた後に、習っていない英語は使わない。(11%) ・ゆっくり何度も言って友達が言いやすいように聞いてあげる。(7%) ・先生の発音を聞いて分かりやすく言って聞いてあげる(4%)	・うなずいたり、アイコンタクトしたりする。(48%) ・リアクションをしている。(22%) ・絵を描いたり、ジェスチャーを使ったりしている。(11%) ・ゆっくり笑顔で話している。(11%) ・最後まで聞いてあげる。(8%)

図5 友達が話しやすいように工夫することに関するアンケート〈N27〉

検証前	検証後
・何を話しているか日本語で教える。(85%) ・ゆっくり繰り返して言っている。(7%) ・ジェスチャーをして話す。(4%) ・何もしない。(4%)	・ジェスチャーをする。(51%) ・違う言葉で言う。(19%) ・スペシャルヒントを言う。(15%) ・絵を描いている。(11%) ・もう一回ゆっくり言う。(4%)

図6 相手に工夫して伝えることに関するアンケート〈N27〉

は「うなずいたり、アイコンタクトしたりする」「リアクションをしている」等相手に配慮しながら話しを聞こうとする記述に変化した。

また、図6の「やり取りする時、友達に外国語が伝わらない時はどうしていますか」の自由記述アンケートでは、検証前は、「何を話しているか日本語で教える。」「何もしない」と記述する児童が89%であったが、検証後は「ジェスチャーをする」「違う言葉で言う」等相手に工夫して伝えようとする記述が見られるようになった。検証後はどちらのアンケートにも検証前に見られた「ない」「日本語で話す」のような記述は見られなかった。

児童の振り返りカードでは、「友達とやり取りする時に大切だと思ったことは、アイコンタクト、ジェスチャー、スマイルなどです。とっても賢くなった気がします。」「友達のヒントが全然分からなかったので、ジェスチャーをしてくれたのですごく嬉しかったです。一生懸命に日本語を使わないように教えてくれたら誰だって嬉しくなります。」などの記述があった。

自分の本当に伝えたいことを「分かってもらいたい」という思いから、どうやったら相手に伝わるのかを考え、その思いが伝わった時の達成感を感じることができた。また、友達の伝えていることを「知りたい」という思いで最後まで話を聞いてあげること、お互いが理解し合い、コミュニケーションすることの居心地の良さを感じることができ、次のやり取りへの意欲が高まっていったのではないかと考える。

これらのことから、自分との関わりで捉えられる題材を変えながら、友達との関わりの中で、できるだけ日本語に頼らず、繰り返し「やり取り」を体験したことで、外国語を用いてコミュニケーションを図る難しさや大切さを実感でき、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に繋がることができた。

(3) コミュニケーション能力の向上について

前述したループリック（表2）を用いた評価では、「言語」について評価基準Aは、100%であった。2語の言葉が入ったヒント文を出しながら、「What's this?」「It's ～.」の表現を用いて、尋ねたり答えたりすることができた。「態度（話す）」の「別の言葉に言い換えてスリーヒントを粘り強く伝えよう」することができた」についての評価基準Aは、86%であった。また、「態度（聞く）」の「依頼する・質問する・リアクション言葉を使って、最後まで聞こうとしている」についての評価基準Aは、93%であった。相手に配慮しながら工夫してやり取りができたと考える。

「態度（話す）」や「態度（聞く）」での評価基準Bの児童の振り返りカードでは、「また、次の英語の学習でがんばりたい」「『グッジョップ』と言えるようになりたい」と前向きな記述が見られた。児童の外国語学習に取り組もうとする意欲や態度を認め賞賛し、児童の負担感に配慮しながら支援を続けていきたいと考える。

図7の「外国語活動は楽しいですか」の問いに「楽しいと答えていた児童は、検証前の74%に対し、検証後は96%と22ポイントの増加となった。「楽しい」「まあまあ楽しい」と肯定的な

表4 ループリック評価

		評価基準	%
言語		A	100
		B	0
		C	0
態度	話す	A	86
		B	14
		C	0
	聞く	A	93
		B	7
		C	0

答えを合わせると 100%であった。理由として、検証前は「歌が楽しいから」「キーワードゲームが楽しいから」等の記述であったが、検証後は「自分の言いたいことが言えるから」「友達と色々な英語を使えるから」「英語をたくさん覚えたいから」等のように、友達との関わりを通して、主体的に学んでいこうとする様子が感じられる内容となった。

検証前「あまり楽しくない」から検証後に「楽しい」と肯定的に変化した児童2人の理

由も、検証前は「全然英語が言えないから」「英語って言いにくいから」という記述であったが検証後は「やり取りがたくさんできるから」「英語を使うとおもしろいから」の記述へと変化が見られた。また、これまで外国語活動に集中して取り組むことに課題があり、振り返りカードを無記述のまま提出しようとする傾向にあった児童Hは、第1時の振り返りカードの殆どの自己評価項目で「できなかった」と評価していたが、第5時では「よくできた」の自己評価に変わっていた。自由記述欄には、「緊張しました。クローズと言ったら分かりました。楽しかったです。」と自分でやり取りできた達成感が感じられる記述となっていた。授業中、教師の問いかけにもすぐに反応していて、児童の「緊張した」という言葉は、活動に真剣に取り組んでいたからこそ発せられた言葉であることが分かる。

他の児童の単元の振り返りでは、「最初英語が苦手だったけど、スリーヒントクイズをやって英語が好きになりました。」「英語で何かを尋ねる言い方が分かり、生活に使ってみたくなりました。」「英語が今日で終わりです。とっても哀しいです。」「最初は、ABCしか分からなかったけど、今は前よりもいっぱい英語が分かり、これからもっと英語を勉強したいです。」「Yさんとも仲良くなりました。」等、学習の学びを生活の場面でも活用したいこと、これからの外国語学習に継続して取り組もうとする意欲があること、学級の友達の良さに気づいたことの記述が見られた。

これらのことから、目的や場面・状況を明確にして、自分の考えや気持ちを伝える言語活動の体験を段階的に、繰り返して行うことで、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育まれ外国語を用いたコミュニケーション能力の向上に繋がったと考える。

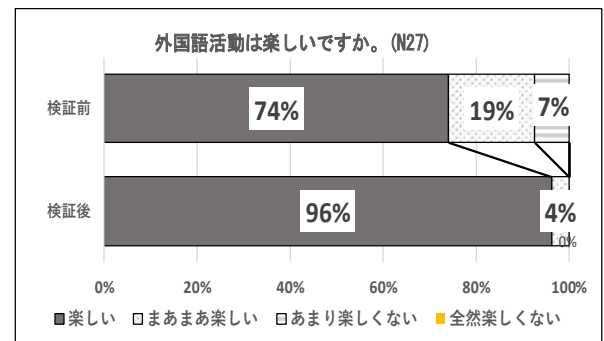


図7 外国語活動を肯定的に捉える割合

IV 成果と課題

1 成果

- (1) 外国語を用いて、自分の考えや気持ちが相手に伝わるように工夫して伝えなければならない場面・状況を設定したことで、子どもがコミュニケーションすることの難しさや大切さを感じることができ、相手に配慮しながら工夫して伝えようとする主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成ができた。
- (2) 子どもの自分との関わりで捉えられる身近な題材を設定し、繰り返し言語活動を行わせたことで、その目的を達成するための言葉や表現を知ることができ、自信を持ってやり取りする態度の育成ができた。
- (3) 目的や場面・状況を明確にした言語活動を行うことは、コミュニケーション能力の向上に繋がることが再確認できた。

2 課題

- (1) やり取りの場面において、子どもの伝えたいことが相手に伝わらない時を想定し、子どもが持っているだろうと予想される外国語の言葉を引き出せるような問いかけの工夫。
- (2) 振り返りの視点をより明確にして発達段階を考慮した振り返りカードの工夫。

〈参考文献〉

- 直山木綿子 2019 「外国語活動・外国語科の指導の在り方 全面実施に向けて取り組みたいこと」『初等教育資料 8』(株) 東洋館出版社
- 日本英語検定協会 2019 『英語情報創刊号』 日本英語検定協会
- 菅正隆 2018 『授業力&学級経営力』PLUS 小学校外国語活動”Let’s Try!1&2”の授業&評価プラン 明治図書出版株式会社
- 酒井英樹 廣森友人 吉田達弘 2018 『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』 株式会社大修館書店
- 文部科学省 2018 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』 文部科学省 開隆堂出版株式会社
- 文部科学省 2018 『中学校学習指導要領(平成29年告示)』 文部科学省 開隆堂出版株式会社
- 文部科学省 2018 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語科編』 開隆堂出版株式会社
- 荒井和枝 2017 『教科のプロが教える「深い学び」をうむ授業づくりの極意』 東洋館出版社
- 大城賢 2017 『平成29年度小学校新学習指導要領ポイント総整理 外国語』 東洋館出版社
- 澤井陽介 2017 『授業の見方「主体的・対話的で深い学び」の授業改善』 東洋館出版社
- 瀧沢広人 2017 『絶対成功する!外国語活動・外国語5領域の言語活動&ワークアイデアブック』 明治図書出版株式会社
- 田中博之 2017 『実践事例でわかる!アクティブ・ラーニングの学習評価』 学陽書房
- 荒井和枝 2015 『小学校でこれだけは教えたい 教科のプロが教える授業づくりの極意』 東洋館出版社
- 二瓶弘行 2015 『子どもがいきいき動き出す!小学校国語 言語活動アイデア事典』 明治図書出版株式会社

〈参考WEBサイト〉

- 文部科学省 2017 『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』(最終閲覧 2019年 10月)
https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm
- 文部科学省 2016 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(最終閲覧 2020年 1月)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm
- 香川千恵 2013 「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する外国語活動の工夫ー課題解決的な単元構成を通してー」(最終閲覧 2019年 10月)
http://www.hiroshima-c.ed.jp/center/wp-content/uploads/kenkyu/choken/h25_kouki/kou18.pdf